

令和3年度第3回吹田市文化振興審議会 議事要旨

- 1 開催日時 令和3年11月12日(金)  
開会 午後7時00分 閉会 午後9時15分
- 2 開催場所 吹田市役所高層棟4階特別会議室
- 3 案 件 第2次吹田市文化振興基本計画(素案)について
- 4 出席委員  
藤野 一夫 会長 芸術文化観光専門職大学 芸術文化・観光学部教授  
藤原 学 委員 吹田市文化団体協議会 会長 吹田郷土史研究会 会長  
古矢 直樹 委員 吹田市文化振興事業団副理事長  
米田 文孝 委員 関西大学 文学部教授  
串崎 幸代 委員 千里金蘭大学 生活科学部准教授  
福留 和彦 委員 大和大学 政治経済学部教授  
辻本 武彦 委員 市民(公募委員選考委員会による審査)  
天野 正夫 委員 市民(公募委員選考委員会による審査)
- 5 公開・非公開の別 公開・非公開
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議進行

【事務局説明】

【資料3 「メディア芸術」の表記について】

- A委員 P6「文化政策の対象範囲」の「生活文化」の中で、デジタル文化の内容を記載して、P15、P16の「基本的な考え方」にもデジタル文化につ

いて記載してはどうか。また、既に「基本的な考え方」に記載されている「情報通信技術の進展と文化・技術」の内容はプラス面のみが記載されているため、人間性を阻害する等のマイナス面も記載するべきである。

B委員 デジタル文化の弊害について、どういう施策が該当するのか。

A委員 教育委員会等、各部局でそれぞれの取組がある。それよりも方向づけが大切である。

B委員 文化振興の分野でも、具体的な施策をひも付けないといけないと思う。

A委員 狭い範囲で捉えるのではなく、広い範囲で捉えなければならない。P 15の「情報通信技術の進展と文化・芸術」の3行目を、「文化・芸術に容易に接することができるようになりました。その反面、種々の問題点が数多く露出してきているのが現状です。」として、その問題点をどう克服していくかという意識を持たないと、我々の将来は危ういということを示す必要がある。

C委員 そもそも、この「文化政策の対象範囲」は国に準ずるものか、それとも、あらゆる文化政策の中で、吹田市として必要なものを定義してもよいのか。

会長 文化芸術基本法に定める範囲に吹田の考えを加えた、広い定義となっている。デジタル文化の考え方にはメリット・デメリット両方あることは感じているが、施策として盛り込むにあたっては非常にデリケートな問題である。規制を文化政策の立場からするのは難しい。良い面を振興することによって、ネガティブな面を沈み込ませるようにしないと難しいと思う。生活文化の中に、デジタル文化が溶け込んでいる事実はあるが、デジタル化のおかげで、なんとかコロナ禍での活動が維持できた面もある。計画に記載するのは困難であると思われる。

A委員 市民理解が得られるようにP 15、P 16の内容をもう少しはっきりと記載するべきである。

C委員 計画に記載することにより、吹田市全員にあてはめることになるが、バー

チャルの世界に日々接する若者にとっては、理解しにくいものになるのではないか。個別に評価をつけずに、やんわりと記載した方がよい。規制に入ると良い結果を生まないと思う。

D委員 デジタル化でイメージされることが、IT、ICT、AI等であると思う。しかし、デジタル化とは本来数値によって表すということ。また、情報化については、広範囲に及ぶため、深く立ち入らない方がよいと思う。簡単にまとめられる程度で記載するのでよいのではないか。

A委員 芸術・文化の中で一番重要なのは「人間性」であり、「人間性」を保つための施策が必要である。

会長 「人間性」というのも非常に広い定義となる。デジタル化を避けて通ることはできないが、デジタル化をコントロールする主体性を身につけるために文化・芸術は必要であるといったことを書き加えてはどうか。

A委員 はっきり規制するという言葉を書かなくてもよいが、問題があるということに記載すべきだと思う。

会長 デジタル文化については、内容について精査し、「基本的な考え方」に2、3行程度追記することとする。

#### 【計画の進行管理について】

会長 吹田市は、条例で審議会を設置することを定めている。今回策定した第2次吹田市文化振興基本計画に、推進体制について書き込むことが重要になってくると思われる。吹田市は、審議会を常設しており、計画について、進行管理を審議会で行うことを明記するべきではないか。前回の計画で進行管理や推進体制について記述はあるのか。

事務局 第5章「計画の推進」の2「計画の進行管理」に、庁内組織である「吹田市文化行政推進会議」を組織し、審議会等で御意見を伺いながら、施策の振興を進めていく旨が記されている。

会長 審議会がない自治体が多い中、常設されている吹田市で進行管理を審議会

です旨を記載しない手はない。他自治体でも計画を作りっぱなしで進行管理をしない自治体が多いが、庁内の組織だけに任せず審議会でも進行管理をした方がよい。

事務局      メイシアターの大規模改修等、大きな施策の推進について、審議会で御意見をいただいたり、御議論いただくことはあった。

D委員      進行管理の具体的なイメージはどのようなものか。

会長      この計画で決めた基本方針や事業計画が、きちんと実施されているかどうか、K P I (重要業績評価指標) にそってエビデンスを元に審議会で説明された内容に基づいて意見を出していくような方法がある。庁内で推進評価をする文化行政推進会議があるのであれば、審議会ではそれをチェックする位置付けを担うことになるのではと思う。他市の先行している事例もある。かなり細かく評価シートを作っている市町村もあるが、行政コストがかかり評価疲れになるだけなので、好ましいとは思わない。多くの事業があると思うが、委員がその中の一部を視察して評価シートを作成する方法もある。ただ、評価については、一番議論が必要な部分であり、今年度で計画を策定するには間に合わないと思われる。今回の計画についてはスルーするのも一つの手ではある。個人的には評価疲れするよりも、事業の実施に力を入れた方がよいと思う。

事務局      文化施策に特化したことではないが、庁内でP D C Aサイクルによる行政評価は毎年しっかりと行っている。これにより事業がブラッシュアップされ、評価される仕組みはできている。審議会で毎年全ての事業をチェックいただくのではなく、何年かに一度、文化の要素を含む事業を審議会に御報告することにより、数値目標とまではいかないが、進行管理ができる部分はあると思う。

E委員      15年前に市民募集による事業評価を実施した。音楽が好きな人は比較的多いが、演劇や古典芸能に興味のある人は少ないなど、全体を通して評価できる人が少なく、結果的にあまり実のある成果が得られなかった。さら

に、人材を集めることが困難である。

F委員 文化・芸術分野で点数をつけることができないことが最大のネックである。

会長 内部評価を出して審議会でチェックする方法を取っている自治体があるので一例は出そうと思うが、評価システムの構築だけで1年間議論する位のボリュームがある。今回の計画については間に合わないため、今後継続して評価について検討するという方法もある。

#### 【計画の読みやすさについて】

C委員 この計画はどのような人が読むことを想定して作られているのか。外国の人等に対しては難しいのではないかと。広く一般に誰でも読めるということであれば、難しい表現にはルビを打ってもよいのではないかと。理想論を言えば、英語、中国語やハングルのバージョンも作れば吹田市としてアピールになる。

事務局 基本的には行政が作った計画に基づいて施策を遂行していくためのものであると、行政の計画としての意味合いが強い。一般の方に広くという場合、「基本的な考え方」の部分はこれまでの議論の中で、「社会包摂」や「文化的民主主義」等の新しい概念が多く組み込まれているため、これを平易な文章で表現することは、本質が伝わりづらくなってしまっている部分があると思われる。

C委員 切り分けがあるのであれば問題ない。そうすると、個別的なことはある程度ざっくりしたものでよいと思う。

#### 【「検討する」の表現について】

F委員 P 1 1の「今後の課題」の3段落目に「街中のあらゆる場所での文化・芸術活動の取組についても検討する必要があります。」の「検討する」という表現があるが、今まで携わってきた街の実行委員の人達からみたら冷た

い印象を受ける。「より促進する」や「より発展に努める」等と前向きな表現とした方がよい。

会長 その部分については、「さらに充実していく必要があります。」に修正する。

#### 【「庁内関係部局」の表現について】

G委員 P5の2「計画の推進」の中で、「庁内関係部局」という表現があるが、分かりづらい。連携をもっと広く捉えて庁内に限定することなく、外部を取り込んだ表現で「本市関係組織」等にしてはどうか。

事務局 適切な表現について、検討する。

#### 【「地域コミュニティ」の指す「地域」について】

G委員 施策Ⅲ-2の「地域コミュニティの活性化」の「今後の（5）」について「地域課題の共有と解決を図ります。」とあるが、ここでいう地域は吹田市の中の特定の地域を指すのか。

事務局 ここでいう地域は、学校の校区や市域の南北等様々だが、共有する課題のあるエリアを指す。

G委員 防災や減災などの表現で地域というのは理解できるが、文化・芸術において、地域は全体を包含したものだと思う。地域の課題と吹田市全体のイメージとでは若干捉え方が違うと感じた。

#### 【各施策の目標達成時期について】

G委員 計画の期間が10年だが、大まかにいつごろまでに実施する等の時間軸を入れることができないか。

事務局 10年で到達する目標を大きく計画の中で定めているが、実施計画を一覧にまとめた冊子の中では、5年間の事業費が記載されている。また、全庁を通して行政評価の中で実施した内容の振り返りと改善等を行っている。

会長        いわば内部評価であり、それに対し審議会が監査的な役割を果たす構造は必要なのかもしれない。行政評価でもなく経営評価でもなく、政策評価が一番重要である。私自身も模索中であるが、それができるようになればよいと思う。

**【次回審議会について】**

事務局     今回の審議会です一定御議論は出尽くしたということでよいか。

委員一同    （意見なし）

会長        今、いただいた御意見をふまえて、修正については会長一任ということでよいか。

委員一同    異議なし

事務局     次回審議会では答申をいただくこととして、11月19日（金）に開催させていただきます。